

スタンダード LDO レギュレータシリーズ

固定出力

スタンダード LDO レギュレータシリーズ

BA□□DD0T シリーズ,BA□□CC0T シリーズ,BA□□CC0FP シリーズ

シャットダウンスイッチ付固定出力

スタンダード LDO レギュレータシリーズ

BA□□DD0WT シリーズ,BA□□DD0HFP シリーズ,
BA□□CC0WT シリーズ,BA□□CC0WFP シリーズ

No.11021JDT01

●概要

スタンダード固定出力 LDO レギュレータシリーズの IC は出力 2A/1A まで供給可能な低飽和型レギュレータです。出力電圧のラインアップ、パッケージラインアップ、シャットダウン SW の有無など幅広いラインアップを揃えております。スタンダード固定出力 LDO レギュレータシリーズは、出力短絡などによる IC 破棄を防止する過電流保護回路、IC を過負荷状態などによる熱破壊から防ぐ過熱保護回路、IC の電源ラインに発生するサージ等から IC を守る過電圧保護回路を内蔵しています。

●特長

- 1) 最大出力電流 2A(BA□□DD0)、1A(BA□□CC0)
- 2) $\pm 1\%$ 高精度出力電圧(BA□□DD0)
- 3) PNP 出力で低飽和型
- 4) 出力電流制限回路を内蔵しているため、出力短絡などによる IC 破壊を防止
- 5) IC を過負荷状態などによる熱破壊から防ぐため、温度保護回路を内蔵
- 6) 電源のサージ破壊を防ぐ過電圧保護回路内蔵
- 7) TO220FP、HRP5 パッケージ(BA□□DD0)、TO220FP、TO252 パッケージ(BA□□CC0)

●用途

DVD・CD 等の DSP 用電源、FPD、テレビ、パソコンなど他のあらゆる民生機器に使用可能

●ラインアップについて

■1A BA□□CC0

品名	3.0	3.3	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10	12	15	パッケージ
BA□□CC0WT	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	TO220FP-5
BA□□CC0WFP	—	○	○	○	○	○	○	—	○	—	TO252-5
BA□□CC0T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TO220FP-3
BA□□CC0FP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TO252-3

■2A BA□□DD0 シリーズ

品名	1.5	1.8	2.5	3.0	3.3	5.0	9.0	12	16	パッケージ
BA□□DD0WT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TO220FP-5
BA□□DD0WHFP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	HRP5
BA□□DD0T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TO220FP-3

形名：BA□□CC0□□
 a bc

形名：BA□□DD0□□
 a bc

記号	内容			
a	出力電圧の指定			
	□□	出力電圧(V)	□□	出力電圧(V)
	03	3.0V(Typ.)	08	8.0V(Typ.)
	033	3.3V(Typ.)	09	9.0V(Typ.)
	05	5.0V(Typ.)	J0	10.0V(Typ.)
	06	6.0V(Typ.)	J2	12.0V(Typ.)
b	SWの有無“W”あり：シャットダウンSWあり SWの有無“W”なし：シャットダウンSWなし			
	パッケージT：TO220FP-5、TO220FP-3 FP：TO252-5、TO252-3			

記号	内容			
a	出力電圧の指定			
	□□	出力電圧(V)	□□	出力電圧(V)
	15	1.5V(Typ.)	50	5.0V(Typ.)
	18	1.8V(Typ.)	90	9.0V(Typ.)
	25	2.5V(Typ.)	J2	12.0V(Typ.)
	30	3.0V(Typ.)	J6	16.0V(Typ.)
b	SWの有無“W”あり：シャットダウンSWあり SWの有無“W”なし：シャットダウンSWなし			
	パッケージT：TO220FP-5、TO220FP-3 HFP：HRP5			

●絶対最大定格 (Ta=25°C)

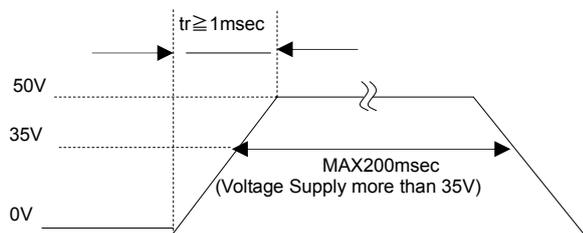
項目	記号	定格	単位
入力電源電圧	V _{CC}	-0.3~+35	V
許容損失	Pd	2300(HRP5)	mW
		1300(TO252-5)	
		1200(TO252-3)	
		2000(TO220FP-3,5)	
動作温度範囲	T _{opr}	-40~+125	°C
保存温度範囲	T _{stg}	-55~+150	°C
接合部温度	T _{JMAX.}	+150	°C
出力制御端子電圧	V _{ctl}	-0.3~+V _{CC}	V
尖頭印加電圧	V _{CC peak}	+50	V

*1 ただし Pd を超えないこと。

*2 HRP5：70mm×70mm×1.6mm ガラスエポキシ基板実装時 Ta≥25°Cの場合は、18.4mW/°Cで軽減。
 TO252FP-3：70mm×70mm×1.6mm ガラスエポキシ基板実装時 Ta≥25°Cの場合は、9.6mW/°Cで軽減。
 TO252FP-5：70mm×70mm×1.6mm ガラスエポキシ基板実装時 Ta≥25°Cの場合は、10.4mW/°Cで軽減。
 TO220FP-5：放熱板なし。Ta≥25°Cの場合は、16mW/°Cで軽減。

*3 シャットダウンSW ありの機種のみ。

*4 印加電圧 200msec 以内(tr≥1msec)



●推奨動作範囲(Ta=25°C)

項目	記号	定格			単位	
		最小	標準	最大		
入力電源電圧	BA□□CC0	V _{CC}	4.0	—	25.0	V
	BA□□DD0		3.0	—	25.0	V
出力電流	BA□□CC0	I _o	—	—	1	A
	BA□□DD0		—	—	2	A
出力制御端子電圧	V _{ctl}		0	—	V _{CC}	V

●電気的特性

BA□□CC0 シリーズ(特に指定のない限りは、Ta=25°C、V_{ctl}=5V(SW 有のみ)、I_o=500mA、V_{CC}=V_{CCD}^{*5})

項目	記号	規格値			単位	条件
		最小	標準	最大		
出力電圧	V _o	V _o × 0.98	V _o	V _o × 1.02	V	V _o はラインアップを参照
シャットダウン時回路電流	I _{sd}	—	0	10	μA	V _{ctl} =0V
最小入出力差	ΔV _d	—	0.3	0.5	V	V _{CC} = 0.95 × V _o
出力電流能力	I _o	1.0	—	—	A	
入力安定度	Reg.I	—	20	100	mV	V _{CC} = (V _o +1)V→25V
負荷安定度	Reg.L	—	50	100	mV	I _o =5mA→1A
出力電圧温度係数 ^{*6}	T _{cvo}	—	±0.02	—	%/°C	I _o =5mA, T _j =0~125°C

BA□□DD0 シリーズ(特に指定のない限りは、Ta=25°C、V_{ctl}=3V(SW 有のみ)、I_o=500mA、V_{CC}=V_{CCD}^{*7})

項目	記号	規格値			単位	条件
		最小	標準	最大		
出力電圧	V _o	V _o × 0.99	V _o	V _o × 1.01	V	I _o =200mA
シャットダウン時回路電流	I _{sd}	—	0	10	μA	V _{ctl} =0V
最小入出力差	ΔV _d	—	0.45	0.7	V	V _{CC} = 0.95 × V _o
出力電流能力	I _o	2.0	—	—	A	
入力安定度	Reg.I	—	15	50	mV	V _{CC} =V _{CCD} ^{*7} →25V I _o =200mA
負荷安定度	Reg.L	—	50	200	mV	I _o =5mA→2A
出力電圧温度係数 ^{*6}	T _{cvo}	—	±0.02	—	%/°C	I _o =5mA, T _j =0~125°C

*5 Vo=3.0V : V_{CC} = 8.0V , Vo=3.3V : V_{CC}=8.3V , Vo=5.0V : V_{CC}=10.0V , Vo=6.0V : V_{CC}=11.0V , Vo=7.0V : V_{CC}=12.0V,
 Vo=8.0V : V_{CC} = 13.0V , Vo=9.0V : V_{CC}=14.0V , Vo=10.0V : V_{CC}=15.0V , Vo=12.0V : V_{CC}=17.0V , Vo=15.0V : V_{CC}=20.0V

*6 設計保証(出荷全数検査は行っておりません。)

*7 Vo=1.5V , 1.8V , 2.5V , 3.0V : V_{CC}=4.0V , Vo=3.3V , 5.0V : V_{CC}=7.0V , Vo=9.0V : V_{CC}=12.0V
 Vo=12V : V_{CC}=14V , Vo=16V : V_{CC}=18V

●参考データ(特に指定のない限り、 $V_{cc}=8.3V$ 、 $V_o=3.3V$ 設定、 $V_{ctl}=5.0V$ 、 $I_o=0mA$)

BA00CC0□□(BA33CC0WT)

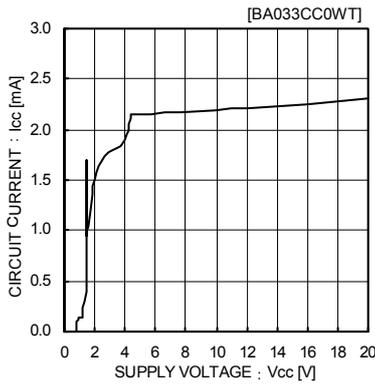


Fig.1 回路電流

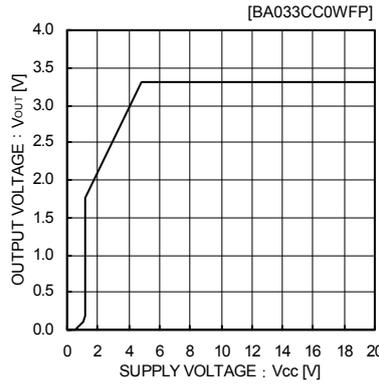


Fig.2 入力安定度

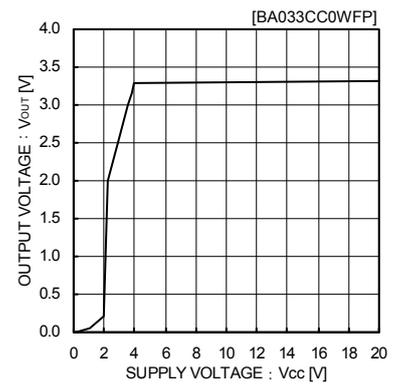


Fig.3 入力安定度
($I_o=500mA$)

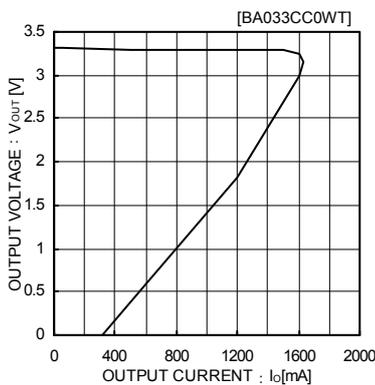


Fig.4 負荷安定度

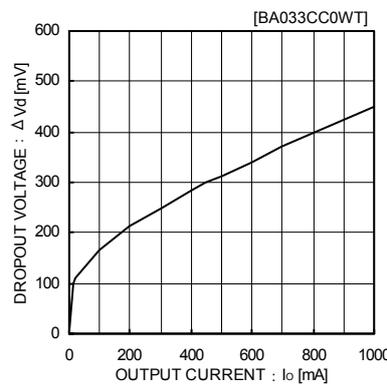


Fig.5 入出力電圧差
 $I_o-\Delta V_d$ 特性($V_{cc}=2.95V$)

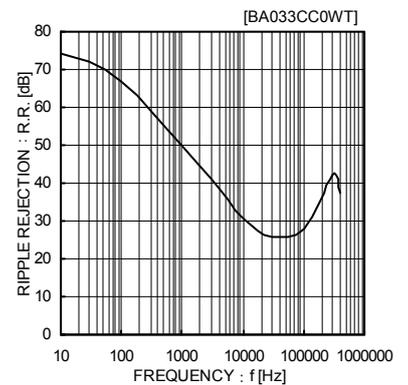


Fig.6 リプルリジェクション
($I_o=100mA$)

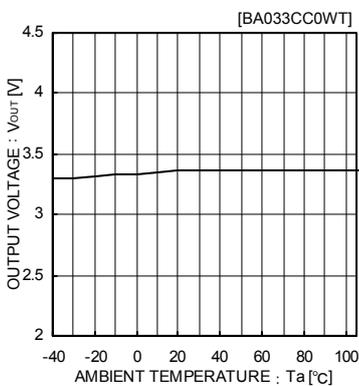


Fig.7 出力電圧温度特性

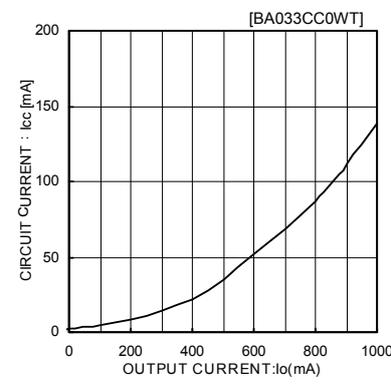


Fig.8 回路電流温度特性
($I_{out}=0mA \rightarrow 1A$)

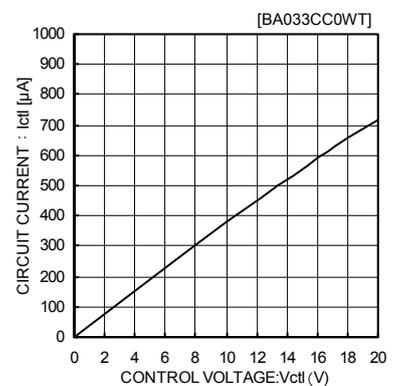


Fig.9 CTL 電圧 vs. CTL 電流

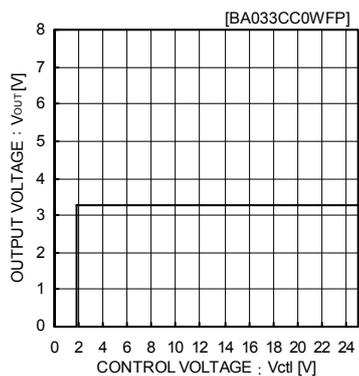


Fig.10 CTL 電圧 vs 出力電圧

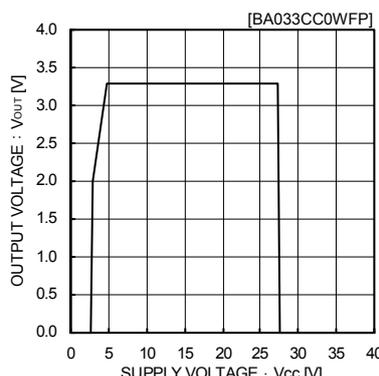


Fig.11 過電圧動作特性
($I_o=200mA$)

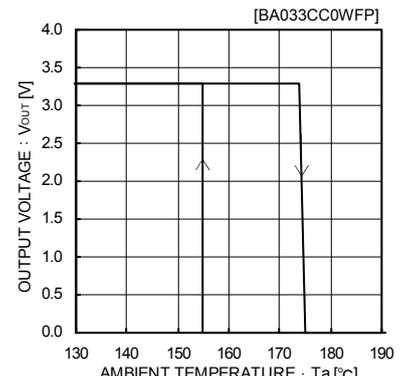


Fig.12 温度保護回路特性

●参考データ(特に指定のない限り、 $V_{CC}=7V$ 、 $V_O=5.0V$ 設定、 $V_{CTL}=3.0V$ 、 $I_O=0mA$)

BA00DD0□□(BA50DD0WT)

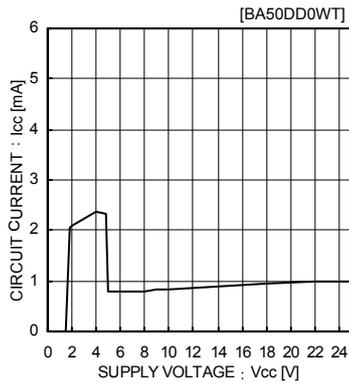


Fig.13 回路電流

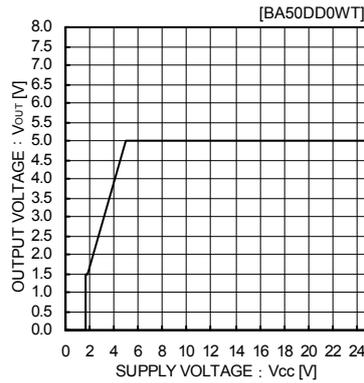


Fig.14 入力安定度
($I_O=0mA$)

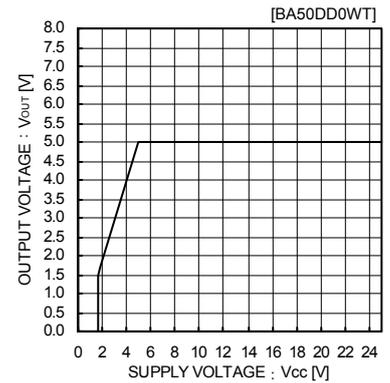


Fig.15 入力安定度
($I_O=1A$)

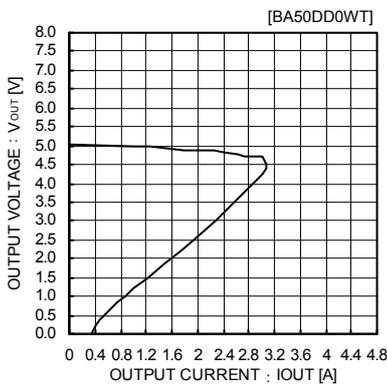


Fig.16 負荷安定度

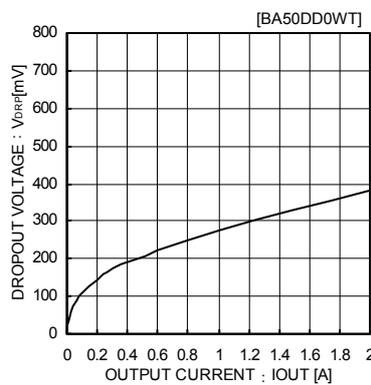


Fig.17 入出力電圧差
 $I_{OUT}-\Delta V_d$ 特性($V_{CC}=4.75V$)

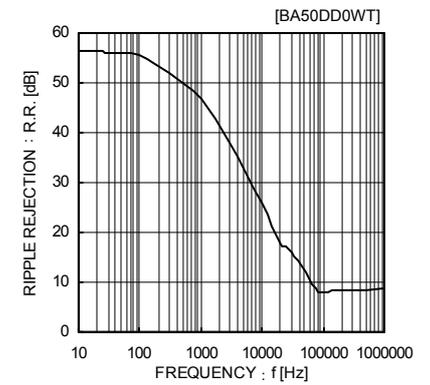


Fig.18 リプルリジェクション
($I_{OUT}=100mA$)

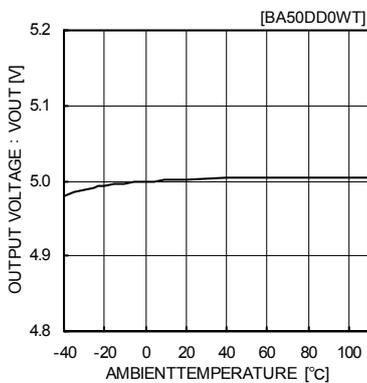


Fig.19 出力電圧温度特性

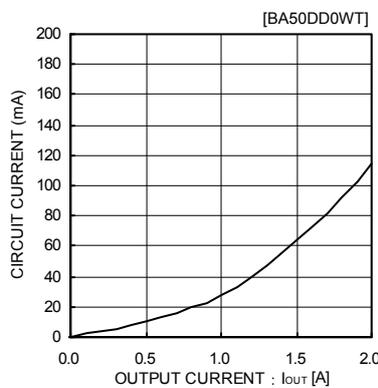


Fig.20 負荷別回路電流
($I_{OUT}=0mA \rightarrow 2A$)

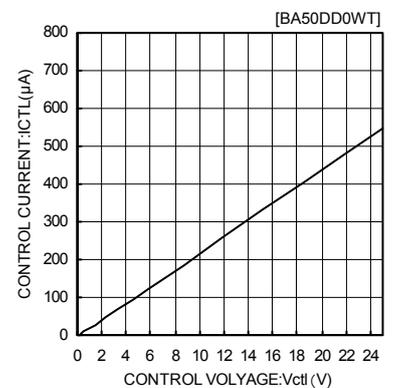


Fig.21 CTL 電圧 vs. CTL 電流

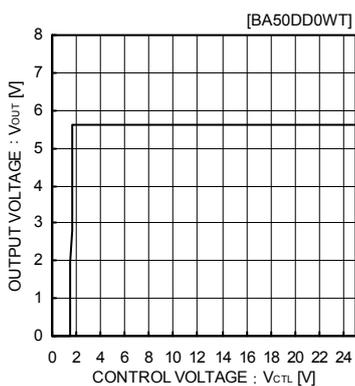


Fig.22 CTL 電圧 vs. 出力電圧

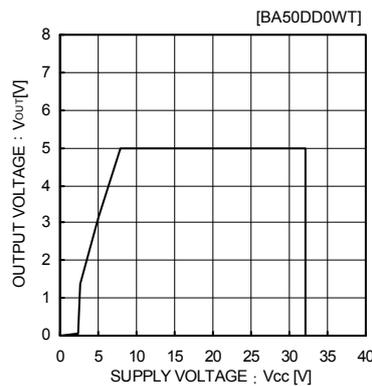


Fig.23 過電圧動作特性
($I_O=200mA$)

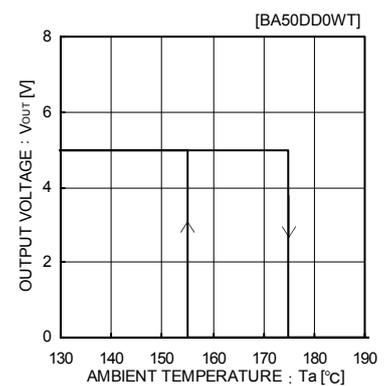
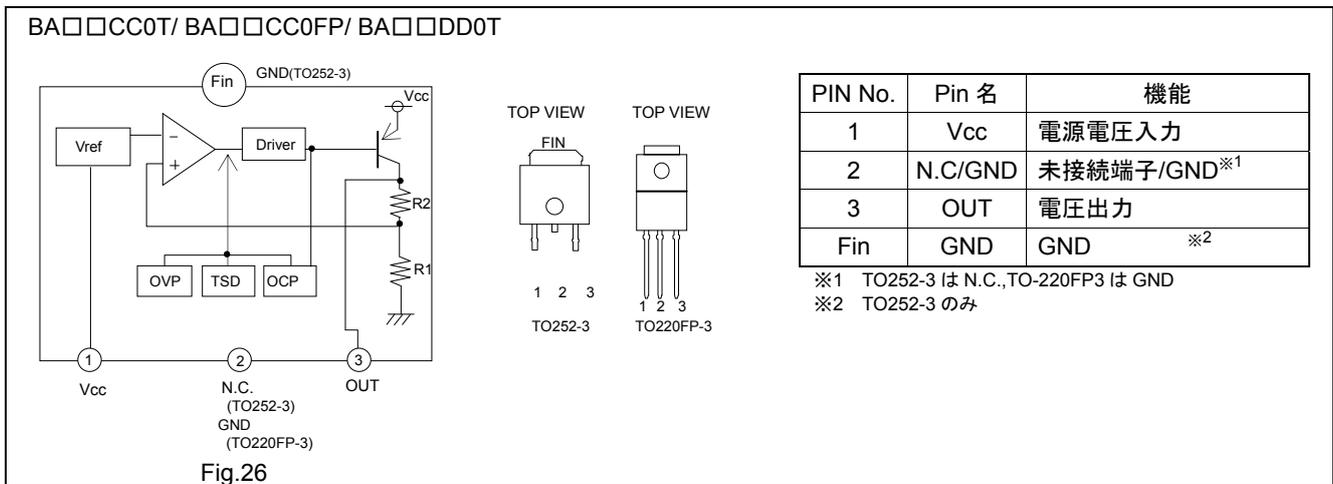
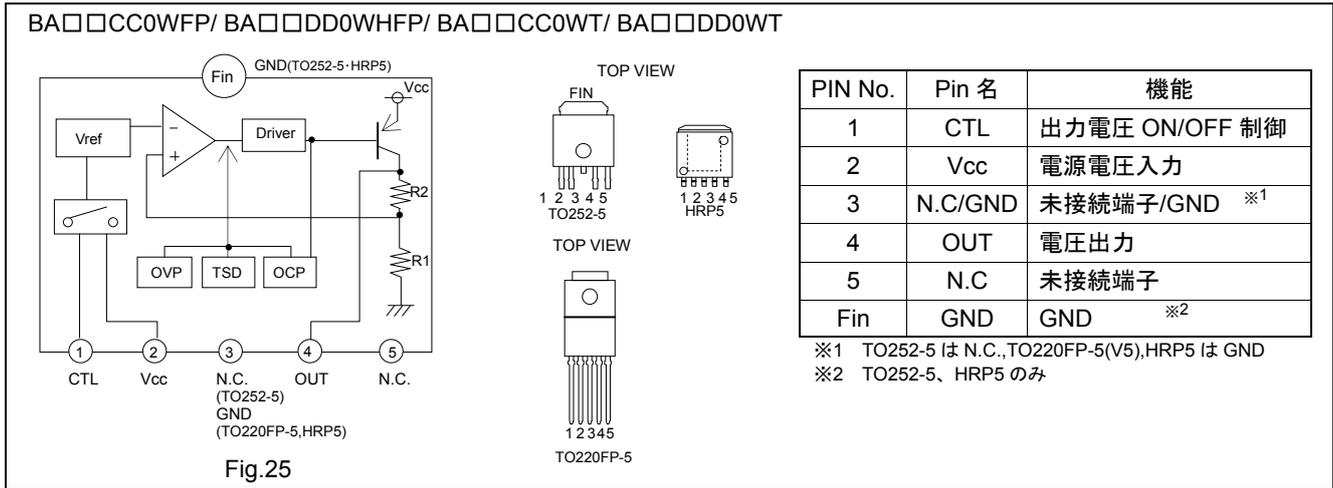


Fig.24 温度保護回路特性

● ブロック図、標準使用回路例



● 入出力等価回路図

BA□□DD0 シリーズ

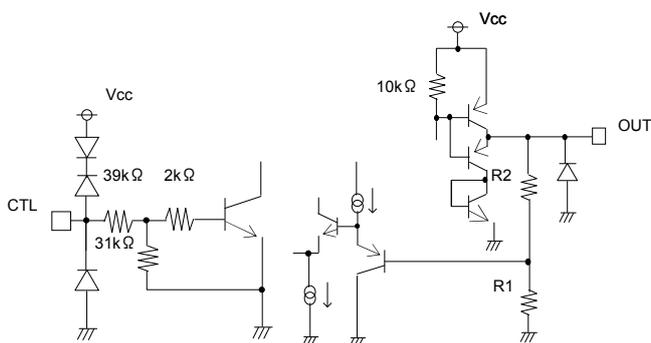


Fig.27

BA□□CC0 シリーズ

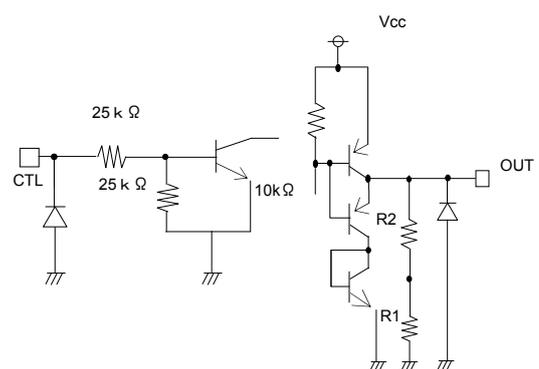
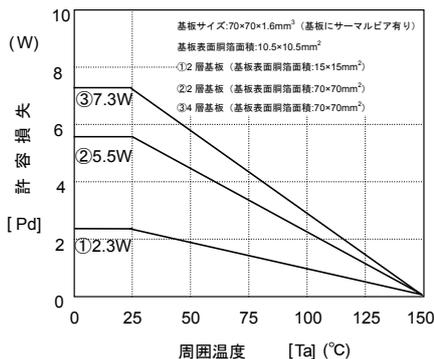


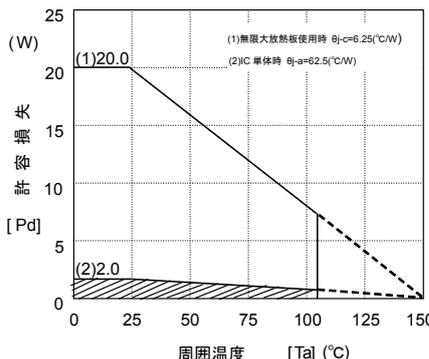
Fig.28

●熱設計について

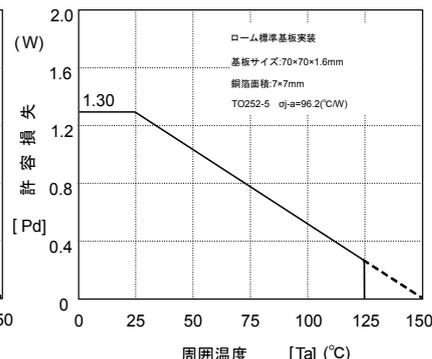
HRP-5



TO220FP-5



TO252-5



Ta=25°C以上でご使用になる場合は Fig.29~31 の熱軽減特性を参考にしてください。IC の特性は、使用される温度に大きく関係し、最高接合部温度 TjMAX を超えると、素子が劣化したり破壊したりすることがあります。瞬時破壊及び長時間動作の信頼性といった2つの立場から IC の熱に対する配慮は十分に行う必要があります。

IC の熱破壊から守るためには、IC の最高接合部温度 TjMAX 以下で動作させる必要があります。

Fig.30はパッケージ TO220FP の許容損失熱軽減特性です。斜線で示した部分が、IC 単体時の使用可能な許容損失範囲です。周囲温度 Ta が常温(25°C)であっても、チップ(接合部)温度 Tj はかなり高温になっていることがありますので、ご使用の際は許容損失 Pd 内で IC を動作させてください。

消費電力 Pc(W)の計算方法は次のようになります。

$$Pc=(Vcc-Vo) \times Io+Vcc \times Icca$$

$$\text{許容損失 } Pd \leq Pc$$

これを許容損失内で動作させるように負荷電流 Io について解くと

$$Io \leq \frac{Pd-Vcc \times Icca}{Vcc-Vo}$$

(Icca は Fig.8.20 を参照してください。)

Vcc : 入力電圧

Vo : 出力電圧

Io : 負荷電流

Icca : 回路電流

となり、熱設計時の印加電圧 Vcc に対しての最大負荷電流 IOMAX を求めることができます。

・計算例

例1) Ta=85°Cの時、Vcc=8.3V、Vo=3.3V、BA33DD0WT

$$Io \leq \frac{1.04-8.3 \times Icca}{5}$$

$$\left[\begin{array}{l} \text{IC 単体時 } \theta_{ja}=62.5^{\circ}\text{C/W} \rightarrow 16\text{mW}/^{\circ}\text{C} \\ 25^{\circ}\text{C}=2000\text{mW} \rightarrow 85^{\circ}\text{C}=1040\text{mW} \end{array} \right]$$

$$Io \leq 200\text{mA}(Icca=2\text{mA})$$

熱設計は以上のことを参考に動作温度範囲内すべてにおいて許容損失内に収めるようにしてください。

なお短絡(Vo-GND 間ショート)時の IC の消費電力 Pc は

$$Pc=Vcc \times (Icca+Ishort)$$

Ishort : 短絡電流

となります。

●端子周辺の設定と注意点

- ・Vcc 端子について
 Vcc-GND 間にコンデンサを付加してください。
 容量値については、アプリケーションにより異なるため確認のうえ十分マージンを持って設計してください。
- ・GND 端子について
 セットグラウンドと IC グラウンドに電位差が生じないよう必ず同電位にしてください。
 セットグラウンドと IC グラウンドに電位差が生じると、設定電圧がきちんと出力されず不安定な状態になりますのでグラウンドパターンはできるだけ太くとり、セットグラウンドと IC グラウンドの距離を出来るだけなくすなどインピーダンスを下げるようにしてください。
- ・CTL 端子について
 CTL 端子は、動作電源電圧範囲内で 2.0V 以上で ON、0.8V 以下で OFF になります。
 電源と CTL 端子の立ち上げ、立ち下げの順序はどちらが先でも問題ありません。

●Vo 端子について

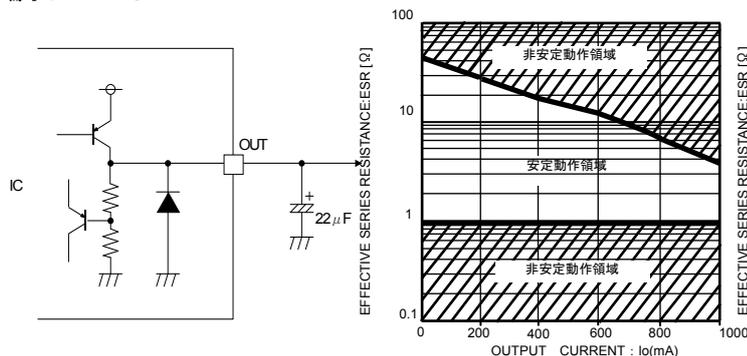


Fig.32 出力等価回路

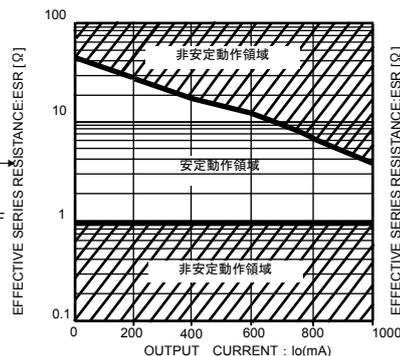


Fig.33 ESR - I_o 特性(BA□□CC0,22µF)

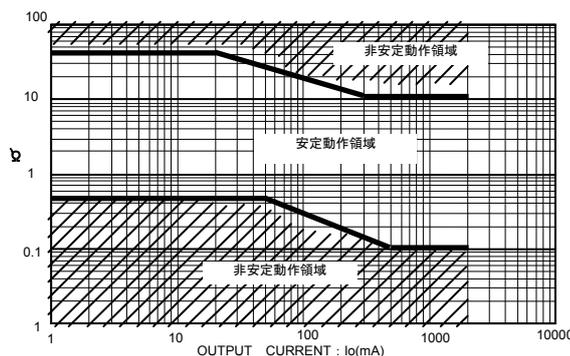


Fig.34 ESR vs I_o 特性(BA□□DD0,22µF)

Vo-GND 間に発振止めコンデンサを付加してください。コンデンサは温度変化などで容量値が大きく変化し、発振を完全に止められない場合があります。よって低温時でも特性がよく、内部直列抵抗(ESR)の小さなタンタルコンデンサやアルミ電解コンデンサを使用してください。ESRは大きすぎても小さすぎても出力が発振します。Fig.32~34のESR特性参考データを参照し、IC は安定動作領域内でご使用ください。また、急峻な負荷変動がある場合は、容量値の大きなコンデンサの使用を推奨します。上図は出力にセラミックコンデンサ 22µF と抵抗を直列に組み合わせて測定した ESR 対負荷の安定動作領域特性です。測定方法の関係上、下記特性は厳密には同容量の電解コンデンサ(ここでは 22µF)の特性とは完全等価ではないので、注意してください。上図の安定動作領域は実際には基板の配線インピーダンス、入力電源のインピーダンス、負荷のインピーダンスによって変化する為必ずご使用になる最終状態での十分な確認をお願いします。

●その他の注意点

1) 保護回路について

・過電流保護回路

出力には電流能力に応じた過電流保護回路が内蔵されているため、負荷ショート時には IC 破壊を防止します。この保護回路は「フの字型」の電流制限回路で大容量のコンデンサなどで瞬時に大電流が流れても電流制限されてラッチしないように設計されております。ただし、この保護回路は突発的な事故による破壊防止に有効なもので連続的な保護回路動作、過渡時でのご使用に対応するものではありません。また、電流能力については温度に対して負の特性を持っていますので熱設計時にはご注意ください。(Fig.4,16 参照)。

・過熱保護回路(サーマルシャットダウン)

IC を熱破壊から防ぐための温度保護回路を内蔵しています。先に示した通り、必ず許容損失範囲内でご使用いただきますが、万が一許容損失を超えた状態が継続すると、チップ温度 T_j が上昇し温度保護回路が動作します。温度保護回路が動作すると回路の動作が停止します。その後チップ温度 T_j が低下するとすぐに回路が動作を開始するため、出力は ON、OFF を繰り返します。(温度保護回路が動作する温度は Fig.12,24 を参照ください。) 過負荷状態のまま放置されますと熱暴走し、IC が破壊する場合がありますため、絶対に避けてください。

・逆流電流について

逆流電流が IC に流れ込んだ時の IC 破壊を防止するため $V_{cc}-V_o$ 端子間にダイオードを入れて電流を逃す経路を作っておくことを推奨します。(Fig.35 参照)

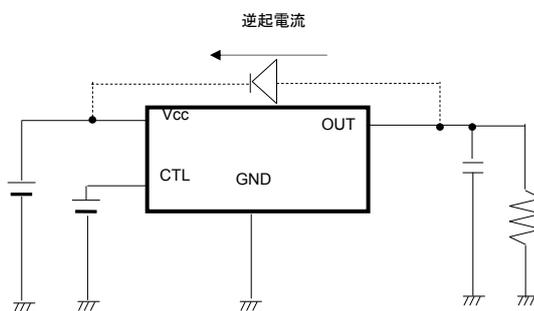


Fig.35 バイパスダイオード

2) 本 IC はバイポーラ IC であり、Fig.36 のように、P 基板(サブストレート)と、各素子間に P^+ アイソレーションを有しています。この P 層と各素子の N 層とで P-N 接合が形成され、電位関係が、 $GND >$ 端子 A、 $GND >$ 端子 B の時 P-N 接合が寄生ダイオードとして、端子 $B > GND >$ 端子 A の時 P-N 接合が寄生トランジスタとして動作します。寄生素子は、IC の構造上必然的にできるものです。寄生素子の動作は、回路間の相互干渉を引き起こし、誤動作、ひいては破壊の原因ともなります。したがって、入力端子に GND (P 基板)より低い電圧を印加するなど、寄生素子が動作するような使い方をしないよう十分に注意してください。

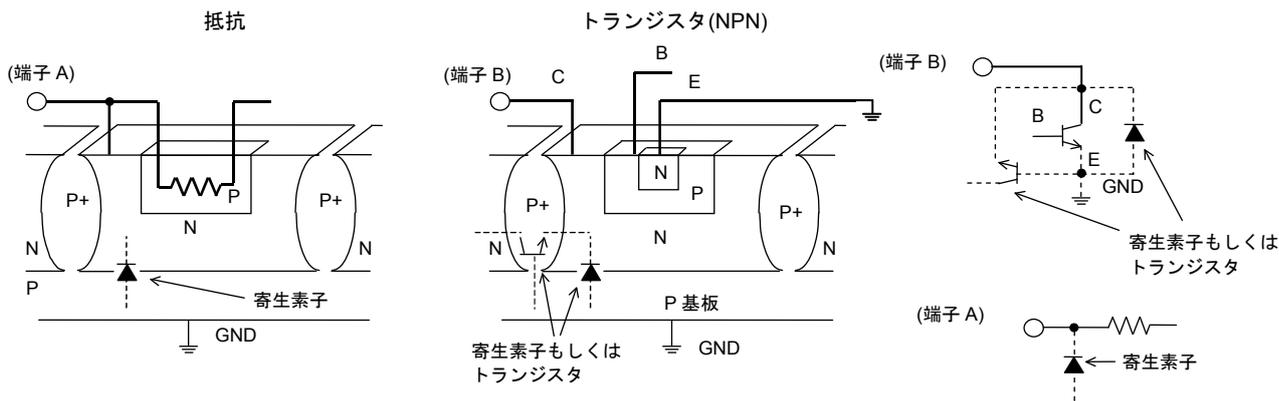
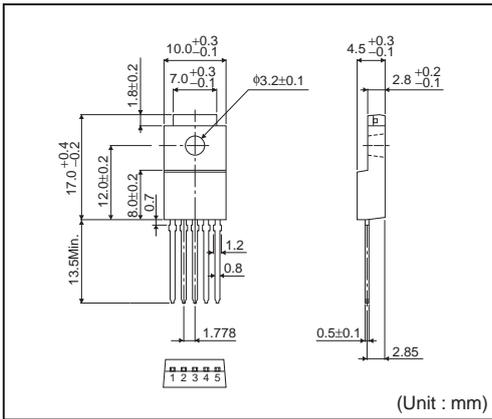


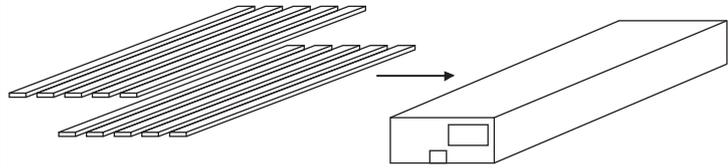
Fig.36 バイポーラ IC の構造例

TO220FP-5



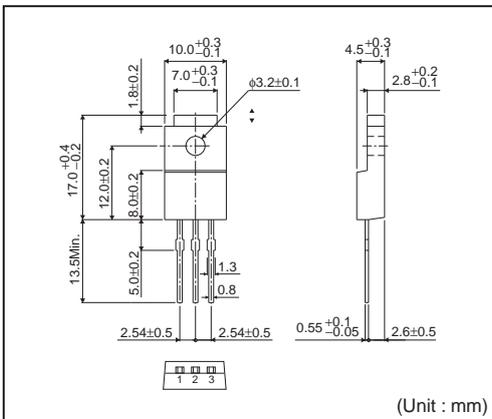
<包装仕様>

包装形態	コンテナチューブ
包装数量	500pcs
包装方向	1コンテナチューブ内での製品方向は一定



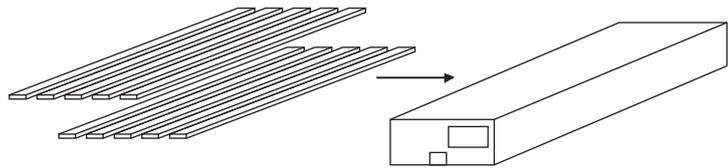
※ご発注の際は、包装数量の倍数でお願い致します。

TO220FP-3



<包装仕様>

包装形態	コンテナチューブ
包装数量	500pcs
包装方向	1コンテナチューブ内での製品方向は一定



※ご発注の際は、包装数量の倍数でお願い致します。

ご 注 意

本資料の一部または全部をロームの許可なく、転載・複写することを堅くお断りします。

本資料の記載内容は改良などのため予告なく変更することがあります。

本資料に記載されている内容は製品のご紹介資料です。ご使用にあたりましては、別途仕様書を必ずご請求のうえ、ご確認ください。

本資料に記載されております応用回路例やその定数などの情報につきましては、本製品の標準的な動作や使い方を説明するものです。したがって、量産設計をされる場合には、外部諸条件を考慮していただきますようお願いいたします。

本資料に記載されております情報は、正確を期すため慎重に作成したものです。万が一、当該情報の誤り・誤植に起因する損害がお客様に生じた場合においても、ロームはその責任を負うものではありません。

本資料に記載されております技術情報は、製品の代表的動作および応用回路例などを示したものであり、ロームまたは他社の知的財産権その他のあらゆる権利について明示的にも黙示的にも、その実施または利用を許諾するものではありません。上記技術情報の使用に起因して紛争が発生した場合、ロームはその責任を負うものではありません。

本資料に掲載されております製品は、一般的な電子機器（AV機器、OA機器、通信機器、家電製品、アミューズメント機器など）への使用を意図しています。

本資料に掲載されております製品は、「耐放射線設計」はなされていません。

ロームは常に品質・信頼性の向上に取り組んでおりますが、種々の要因で故障することもあり得ます。

ローム製品が故障した際、その影響により人身事故、火災損害等が起こらないようご使用機器でのディレーティング、冗長設計、延焼防止、フェイルセーフ等の安全確保をお願いします。定格を超えたご使用や使用上の注意書が守られていない場合、いかなる責任もロームは負うものではありません。

極めて高度な信頼性が要求され、その製品の故障や誤動作が直接人命を脅かしあるいは人体に危害を及ぼすおそれのある機器・装置・システム（医療機器、輸送機器、航空宇宙機、原子力制御、燃料制御、各種安全装置など）へのご使用を意図して設計・製造されたものではありません。上記特定用途に使用された場合、いかなる責任もロームは負うものではありません。上記特定用途への使用を検討される際は、事前にローム営業窓口までご相談願います。

本資料に記載されております製品および技術のうち「外国為替及び外国貿易法」に該当する製品または技術を輸出する場合、または国外に提供する場合、同法に基づく許可が必要です。



ローム製品のご検討ありがとうございます。
より詳しい資料やカタログなどご用意しておりますので、お問合せください。

ROHM Customer Support System

<http://www.rohm.co.jp/contact/>